

第300回記念史跡めぐり<三の宮卯之助力石を諏訪大社に訪ねる>

○ 日 時 平成14年3月24日(日)

○ 集 合 JR南越谷駅・あさひ銀行南越谷支店前 午前7時20分

○ コース

南越谷=<中央道>=→諏訪大社上社前宮→同上社本宮→
7:30発 11:00 見学 11:40 11:45 見学 12:30

—昼食(老舗・うな藤を予定)—→高島城→
13:00 昼食 13:45 14:00 見学 14:30

—諏訪大社下社春宮→万治の石仏→諏訪大社下社秋宮(三の宮卯之助の力石あり)
14:50 見学 15:40 15:45 見学 16:30

=<中央道>=南越谷 <解散・21時00分予定>

案内者 常任理事 高崎 力



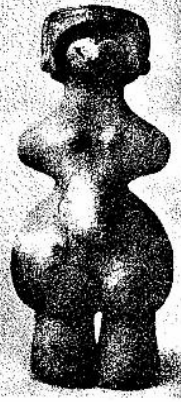
三の宮卯之助の力石
諏訪大社下社秋宮

越 谷 市 郷 土 研 究 会

縄文 尖石縄文考古館 歴史探訪の旅



縄文時代、八ヶ岳山麓には集落が密集し、日本一の人口密度を誇ったといわれています。生活必需品の「黒曜石」が採れ、山川の資源も豊富なうえ気候も温暖で、非常に生活しやすい土地だったようです。長野県茅野市には大小300以上の縄文遺跡があり、棚田遺跡からは国家「縄文のビーナス」が4,500年の眠りから目覚めました。また、平成12年には「仮面土偶」がほぼ完全な形で出土。縄文考古館では、茅野市内の遺跡、縄文早期の頭蓋沢遺跡や前期の下ノ原遺跡、中期の尖石遺跡、棚田遺跡、後期の中ノ原遺跡などから出土した縄文土器の数を展示しているほか、当時の人々の生活を考えたり体験したりできます。「縄文王国」茅野で縄文ロマンにひたってみてはいかがでしょうか。



国宝 土偶 縄文のビーナス
縄文時代中期 棚田遺跡
原状集落の中央広場の小さい穴に埋納された状態で出土。27cmの完形大形の近細土衝、わが国で最も古い固定のついで。

尖石遺跡 尖石遺跡は八ヶ岳西南山麓1070mの合地にあって、縄文時代中期の代表的な遺跡です。昭和5年から発掘調査が行われ、多くの豪華な遺物とともに90軒近い住居址が発掘されました。縄文時代の学術研究上で価値が高く、「特別史跡」に指定されています。その後の調査とあわせて184軒の住居址が確認されました。その尖石遺跡をはじめ、復元住居、尖石、尖石縄文考古館は、約3万坪もの面積をもち、豊かな緑に囲まれた尖石史跡公園内に点在しています。



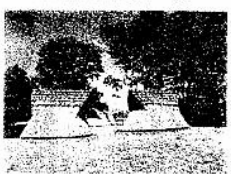
ヘビの把手のついた土器
縄文時代中期 尖石遺跡
昭和8年に宮坂英次氏によって完全な形で発掘されました。尖石遺跡を代表する土器です。



仮面土偶
縄文時代後期 中ノ原遺跡
広場一帯に散在した穴の一つから埋納された状態で出土。女性を安す恵かで優れた文様が付けられています。



尖石
遺跡の南斜面にある高さ1m余りの三角錐状の岩が「とがりいし」と呼ばれ、遺跡の名前のいわれとなりました。縄文人が石器を研いだ石といわれています。



与助尾留遺跡の復元住居
昭和24年、堀口捨己博士の設計で縄文の復元住居が建てられました。平成12年度の史跡整備事業で同一設計により6軒復元しました。

開館時間 午前9:00～午後4:30 休館日 毎週月曜日、祝日の翌日
茅野駅より徒歩の運行バスで約20分、尖石縄文考古館前下車

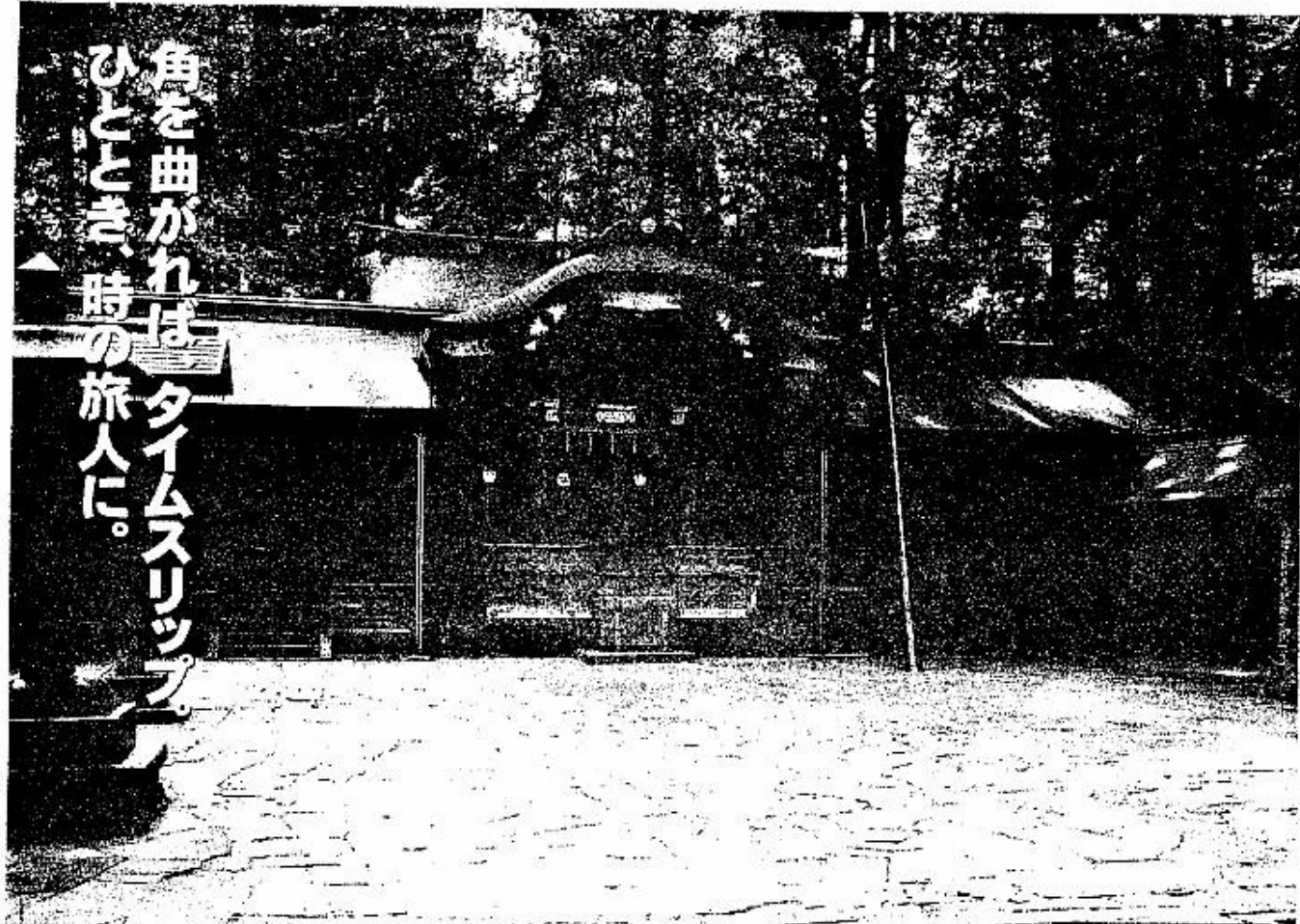
諏訪市観光MAP



諏訪市経済部観光課
〒385-0001 諏訪市高島1丁目22-30 TEL(0266)52-4141 FAX(0266)58-1677
http://www.city.suifu.nagano.jp

諏訪市観光協会
〒385-0001 諏訪市高島1丁目22-30 TEL(0266)52-2111 FAX(0266)58-4677

角を曲がれば
ひととき、時の旅人に。
タイムスリップ



諏訪大社上社本宮

諏訪大社

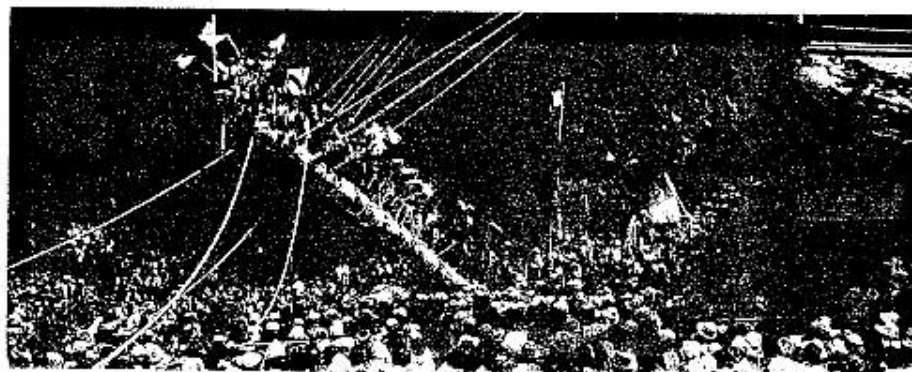
全国に広がる諏訪大社総本山。平安時代の文献にも見ることができ、「信濃国一之宮」として多くの人々の信仰を集めてきました。

諏訪大社は、諏訪湖の南側に位置する上社本宮(諏訪市)と前宮(茅野市)北側に位置する下社森宮と秋宮(共に諏訪郡下諏訪町)の四社から構成されています。上社の祭神は建御名方神(たけみなかたのかみ)で、中洲神宮寺に位置する上社本宮は、神体山とされる守屋山を背後に抱えています。正月元日の朝行われる「雄狩りの神事」、9月15日の「十五夜車校」など、多くの神事・祭事があります。現在の上社本宮の社殿は江戸時代後期に建てられたもので、国の重要文化財に指定されています。

●諏訪大社上社本宮 TEL(0266)52-1919



諏訪大社 上社本宮宝物殿



天下の大祭 御柱祭

十二支の寅年と申年の式年ごとに一度、諏訪地方の氏子達が参加して行われる御柱祭は、長さ16m余・重さ12トン余りのモミの木を、山中よりテコと綱の人力だけで曳き出し神殿の四隅に建てることと、神殿の建て替えの2つに大別されます。御柱の木落し、川越しなどの規模と姿様まで天下の大祭の一つに挙げられています。平成6年に県の有形民俗文化財に指定されました。次回は平成16年に開催。

歴史

時を越え、古の浪漫をいまに伝える史跡・遺跡の数々。ここ諏訪には幾多の城、神社、仏閣等が静かに時を刻み訪れる人々に悠久の歴史を語りかけてくれます。また、街のあちこちには昔ながらの造り酒屋や味噌蔵なども、その姿を色濃くとどめ忘れかけていた郷愁の世界へと皆様を誘います。

諏訪大社本宮「四脚門」

諏訪大社上社本宮の布石の途中から斎庭に入る所に四脚門があります。慶長19年(1614年)徳川家康の寄進によって造られたといわれています。四脚門は棟門にあたる本社の前後に2本ずつ控柱(副柱・袖柱)をつけた形式の門で、八脚門とともに古くから造られていました。

四脚門は東宝殿、西宝殿の中間にあり、そのなかはかつて對足地の神聖な地であり、正面に祭座を拜します。この門から下を中櫃、下枡としていて、神仏習合時代以前の神社信仰の形態を知るうえで、貴重な門です。



諏訪大社本宮「神楽殿」

神楽殿は下櫃にあたる場所にあり、磐座の礎石、四脚門の延長線上にあり、古い時代の社殿配置をうかがい知ることができます。神楽殿は神楽臺上ということでは一般に知られていますが、拝殿の意味をもっています。そうすれば、神仏習合以前の本宮の正面と考えられます。

現在の神楽殿は文政10年(1827年)上桑原村の伊藤伝蔵(大隅流)によって上棟されました。桁行四間、梁間三間、入母屋造、敷を正面とし、三方に切目縁をまわし、擬宝珠高欄をつけています。



諏訪大社本宮「五本杉」

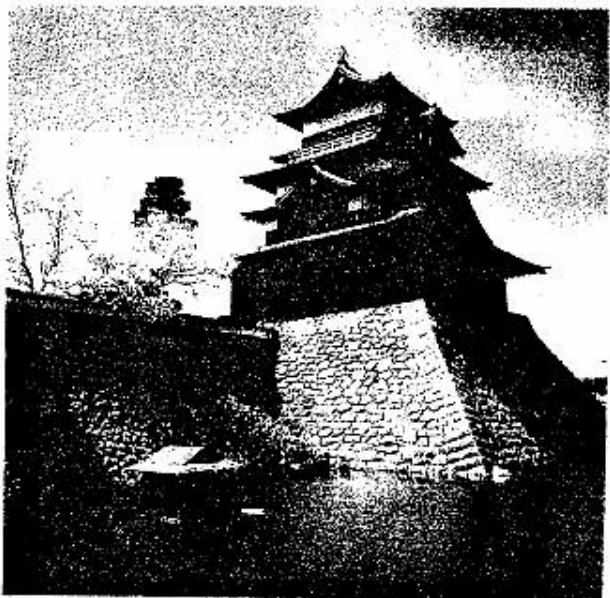
五本杉は上社神宮寺管賢堂跡の南側にあり、当初5本であったが、1本が落雷で損壊したため伐採され、切り株のみが残っているが、今でも五本杉と呼んでいます。5数は五色などと同じく、陰陽五行説にちなんで選ばれた数と考えられます。

杉には各から神霊の宿る木という信仰があり、この五本杉にも、弘法大師が「綱目照り夕日かがやくこの山に漆千杯、金千杯、栗千杯」と言い残したという宝物が、この五本杉の下に埋められているという伝説があります。



諏訪高島城

高島城は別名浮城とも呼ばれ、400年ほど前の慶長3年、豊臣秀吉の武将、日根野孫右衛門正高古により築城され、諏訪氏の居城としてその威容と要害堅固を誇ってきました。昭和45年5月に復興され、その美しい姿を再び塔の木に映すようになりました。1階は郷土資料室、2階は高島城資料室、3階天守閣は高島城資料室と諏訪の平を一望できる展望室になっています。敷地内の公園は桜の名所ともなっており、また、四季の花が美しく咲き乱れています。

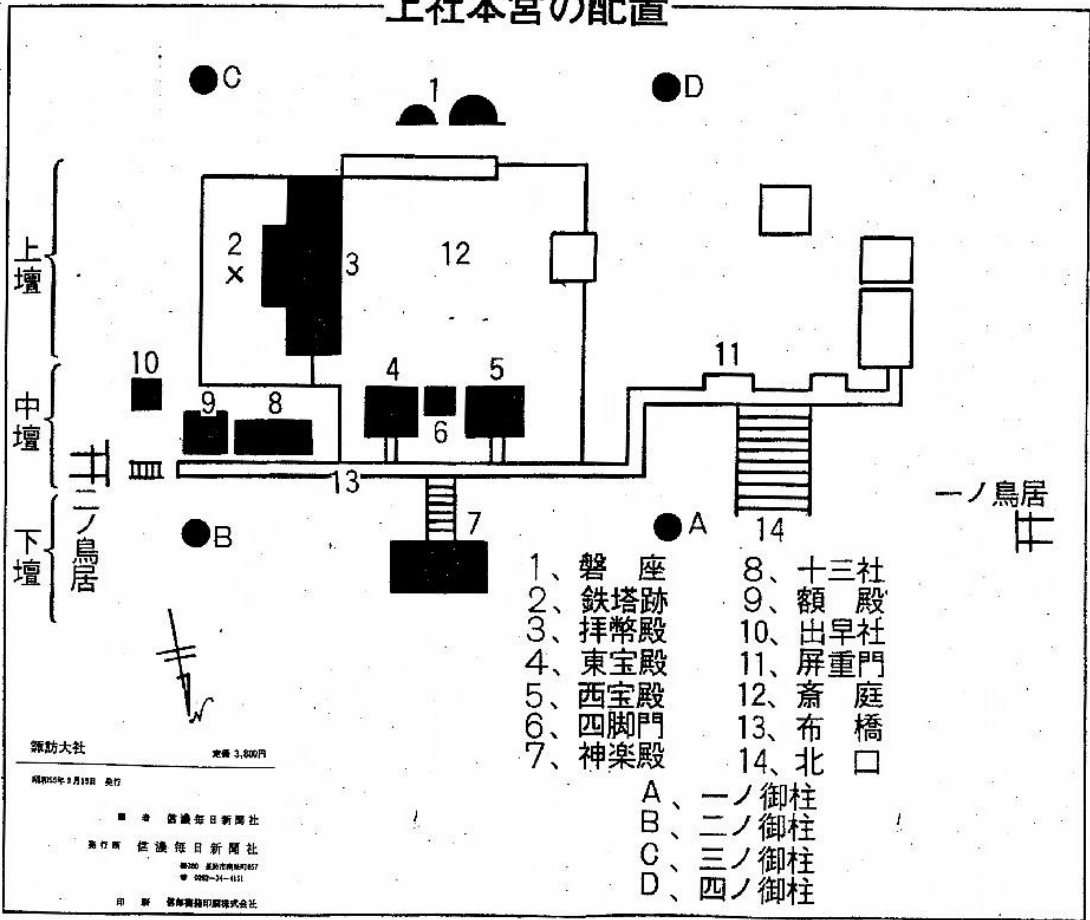


温泉寺「諏訪藩主廟所」

温泉寺から樫大門を登りさった所にあります。2代藩主諏訪忠恒の廟を中心、歴代藩主の墓碑が左右に並んでいます。忠恒の墓は二間半四面の御霊座の中にあり、高さ200cm、3段の壇上に建っています。御霊座の向かって右には、4代・忠虎、3代・忠晴、6代・忠厚、8代・忠徳の墓碑、向かって左には、5代・忠林、7代・忠藩の墓碑があります。また、六角の石燈籠110余基がたてられて、今でもお盆には由緒の人々の手で紙を貼り灯がともされます。



上社本宮の配置



諏訪大社 定額 3,800円

昭和59年7月19日発行

発行所 信濃毎日新聞社
 〒380 長野市南町457
 ☎ 0262-24-6111
 印刷 信濃毎日新聞社

社殿 庭橋
 三早重
 十額出屏齋布北
 8、9、10、11、12、13、14、
 柱柱柱柱
 御御御御
 一二三四
 座跡殿殿門殿
 塔幣宝殿門殿
 磐鉄拜東西四神
 A、B、C、D
 1、2、3、4、5、6、7

諏訪神社例祭(すむとじまじり)

信濃の上下諏訪神社の祭礼は、三月中西の日に行われる。「木曾縣名所図会」(文化二一八〇五)に、「当社は神野の國一の宮にして(略)例祭は年中七十五度あり。其中に毎歲三月廿日也。三ツあれば申を用ゆ。二ツなれば初を用ゆ。鹿の頭を七十五組にのせ、神前に供す。又別に鹿の肉を料理しそなふ。社人も其鹿の肉を食す。他人鹿肉并に鹿を喰んとする時は、此神に願ひて、社より箸を受て喰せ、穢しとぞいひ云ふ。上下共に七年に一度(每寅申年)御柱として大祭あり」とある。また同様であるが『大日本年中行事大全』(天保三十一一八三三)の三月西の日の記事に、「諏訪明神祭。二ツあるは上西。信濃國諏訪郡にあり(略)今日鳥居及び鹿の頭七十五を獻る。鹿は近郷より獻るに、必ず七十五持集る。是諏訪七不思議の一つなり」とある。

江戸の庶民は信濃上の禁裏から鹿肉は食べなかつたが、東郷は食後に活力が付く事を知っていたので、「薬喰い」(この項参照)と称して初冬に食べる事があった。その際、諏訪神社から供せられる杉箸を用いた。そこで、江戸の町にある諏訪神社の例祭の時、諏訪本社に做って杉箸を申し受けて、鹿肉を食べるのに用いた。現代の辞書には収録されていないが、江戸語彙ではこれを「諏訪の箸」と称する。

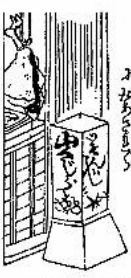
薬喰い諏訪明神が元祖なり (室生義也)

(諏訪社では古来から食す)

杉箸を音無川に流すなり (發三)

音無川は、王子権現の麓を流れる川。日暮里の諏訪神社から授けられた杉箸で、鹿肉を食べ、箸を流すという意味から、使用後の箸を川に流す。日暮里の諏訪明神社については、「江戸名所図会」に「諏訪の台にあり。信濃諏訪の祭神におなじ(略)例祭は七月二十七日なり」とある。この社で杉箸を授けたこと、また御飯として杉箸を川に流すこと、これらは川御からは類推出来るが、明確な文献がまだ目立っていない。

信濃毎日新聞社
 印刷所 信濃毎日新聞社
 〒380 長野市南町457
 ☎ 0262-24-6111



けだもの屋「絵本柳多留」

薬喰い(ぐすりくひ)

我が国では、仏教的な禁忌からか、鹿肉を食べることは、心身の清浄を損なうものとして排斥されていた。庶民たちは鹿肉を食べると、体が温まり滋養が十分にあることを知っていた。そして、寒中養生のために、秘かに食べたのである。寒中に保温・滋養のために猪・鹿などの鹿肉を食べることを「薬喰い」と言ふ。元禄期の井原西鶴の浮世草子にも、「薬喰い」が描かれ、当時の俳諧にも題詞として使われている。

薬喰い餅の事主斎持参
 薬喰い餅とせし女かな 竹園
 薬喰い餅はぼつかなに人喰ふ 九葉
 男たちは好んで食べたらしいが、当時の女たちはその臭気を嫌って食べなかつた。「甲子夜話」(徳川には、鹿肉を食べ続ける特有の臭みがあり、それを「かくさい」と称す)と述べる。「かくさい」は「悪臭」という漢字を当てる。「滑稽雑談」(正徳三十一一七二二)には、「和俗衆に入りて三日・七日、或は三十日間、其の功用に依じて、鹿・猪・兔・牛等の肉を喰ふ。是を薬喰と稱する也」とある。また「本草食鑑」(元禄十一一六九七)にも、「本邦、鹿を食する者、穢多しとす。(略)鹿肉甘温にして善し。冬時に食ふべし。他月宜しからず。故に寒中特に用之。中を補ひ氣を益し一切の風虚を療し血脈を調ふ。故に足を薬食といふ」とあり、虚弱の人が寒中に食ふことを推奨している。平賀源内の「風流道軒傳」(宝暦十三一七六三)には、民術を写して「乙子の餅祝ふ頃より、雪霰なんどしげしげにふりまきりて、風を身をそくがごとくなれば、首める人々は冬籠の巨魁に、薬喰の用心するさ(……)」とある。薬喰いに関する川柳は、膨大にある。


下諏訪観光ポイントマップ

下諏訪観光協会

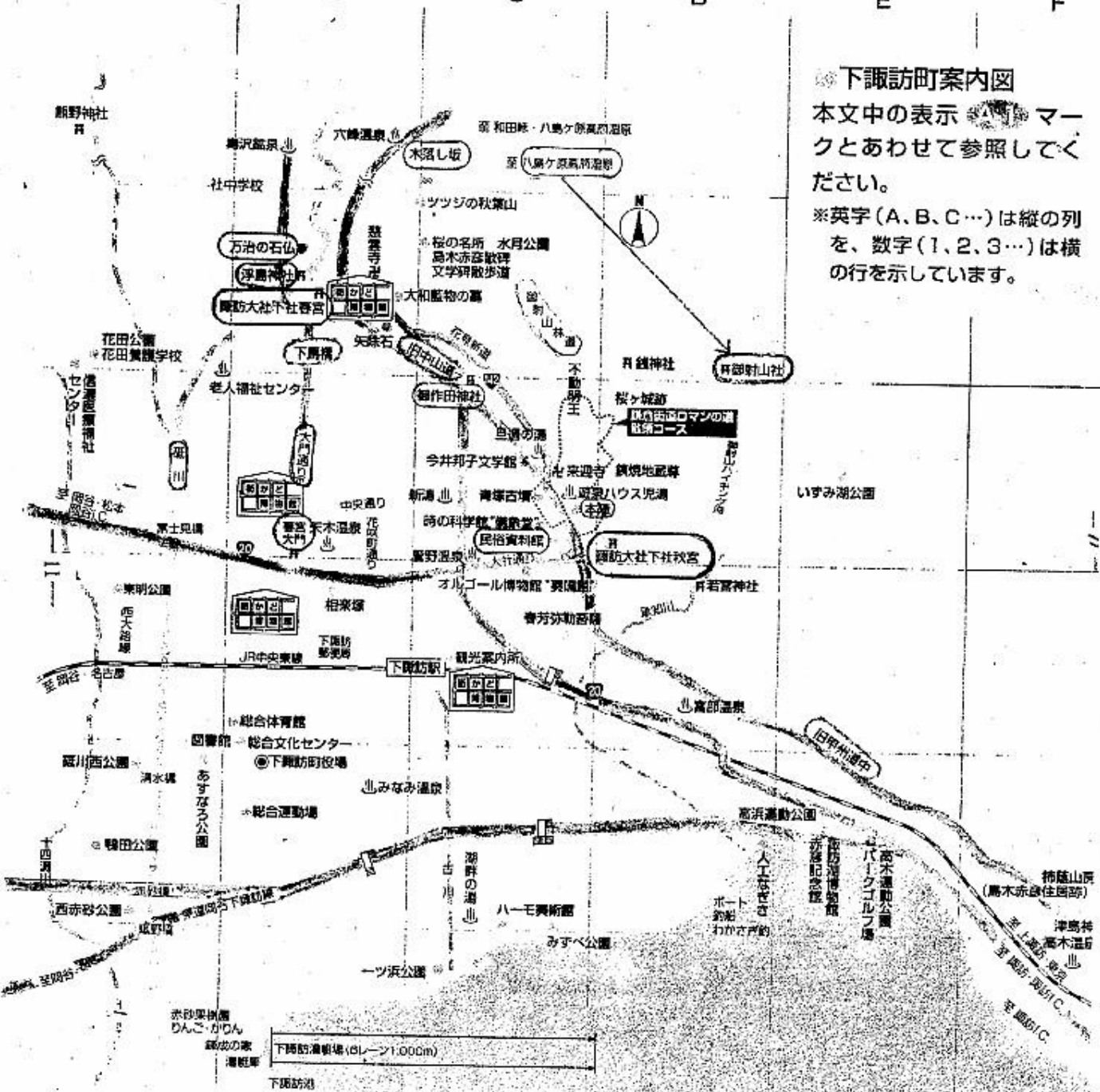
〒393-8501 下諏訪町4613-9 役場内
☎0266-27-1111(代) FAX0265-26-1511

A B C D E F

下諏訪町案内図

本文中の表示  マークとあわせて参照してください。

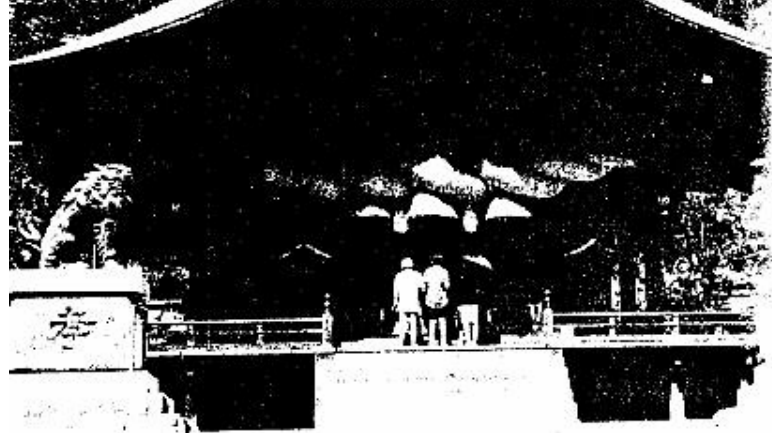
※英字(A、B、C…)は縦の列を、数字(1、2、3…)は横の行を示しています。



赤砂栗焼
りんごがりん
緑色の家
湯船場
下諏訪池

下諏訪湯船場(プール1,000cm)
下諏訪池

遙かいにしえに思いをはせて
道は悠久の浪漫をめぐる。



諏訪湖のほとり。遙か太古の時代から人々の心を
とらえ続けてきた諏訪信仰のふるさと。豊かな自然
を崇め、豊穰の暮らしを求めた祈りの原点が、今も
この街には息づいています。全国二万余の分社を持つ
諏訪大社、中山道随一の宿として栄えた街道のまち。
そして情緒豊かな湯の街。下諏訪は、鮮やかな歴
史文化を色濃く伝え続ける浪漫のさとです。
多彩な表情を持つ下諏訪町の散策をどうぞぜひゆっ
くりと、こころゆくまでお楽しみください。

歴史浪漫散策ガイド

諏訪大社下社秋宮(国重要文化財)



下諏訪宿のすぐ脇にあり、交通の便もよく多くの参詣客
で賑わいます。拝殿は江戸中期、諏訪の名匠、立川和四郎
雷棟の代表作で彫刻が見事。また神楽殿は二代立川和四郎
雷昌の作で荘重な趣きを漂わせます。また日本一大きい青
銅製の狛犬やしめ縄も見られます。

諏訪大社下社春宮(国重要文化財)



下社最初の鎮座地と考え
られ、農耕開拓神の様式を
伝える1月15日の筒粥の
神事が伝わります。拝殿は
大隅流の村田長左衛門矩室
の作。秋宮の立川流と懸っ
て作ったものと言われ、清
楚な美しさが特徴となっ
ています。国の重要文化財となっています。



諏訪大社下社宝物殿



宝物殿には、国の重要文
化財の禊神祝印(めがみは
ふりのいん)をはじめ、諏訪
大社下社に伝わる貴重な宝
物・資料が保存展示されて
います。美術品や古文書な
どいずれも貴重なものです。
開館時間 9:00~16:00



(無休)
入館料 大人300円 子供150円
団体(20人以上) 大人200円
問い合わせ TEL.0266-27-8035

万治の石仏



諏訪大社春宮の脇、祇川
むこうの田んぼの中に鎮座

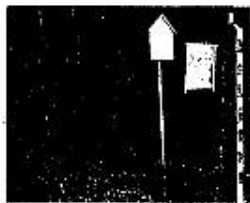


する阿弥陀如来さまです。高さ2mあまりの半球状の自然
石に頭が乗っかっていて、岡本太郎や新田次郎も非常に感
激した程。ユニークな石仏です。

下諏訪町歴史民俗資料館



旧中山道と甲州道中の合流点近く
にある資料館は、江戸時代の宿場民家を
保存するもの。また、宿場関係を中心
に街道、温泉などの貴重な資料が展示
されています。



開館時間 9:30~18:00
休館日 火曜日と祝祭日の翌日
入館料 大人220円 子供100円
団体(20人以上) 大人130円 子供50円
問い合わせ TEL.0266-27-8827

下諏訪宿本陣



江戸時代に、街道を利用する参勤交代の諸大名が泊った
本陣。第14代将軍家茂に嫁いだ皇女和宮がお泊まりにな
り使用した上段の間に今もそのまま残されています。名園
に面して建つ武家屋敷も印象深いものです。

開門時間 5~10月 9:00~18:00(無休)
11~4月 9:00~17:00
観覧料 大人400円 子供200円
問い合わせ TEL.0266-28-7055

慈雲寺



鎮倉五山の一つ建長寺住職一寧一山
禅師を招いて正安2年(1300)に開
山されました。優れた僧が続き、臨済
宗の悟州禅師として信州文化の中心と
なりました。天柱の松・大梵鐘・杉並
木・竜の口などが有名です。



今井邦子文学館(中山道「松屋」)



中山道下諏訪宿の茶屋であった「松屋」の建物を復元し、
アララギ派の女流短歌誌「明日香」社として使われていた

最古の歴史を刻んで



諏訪大社 御柱祭

全国に一万余の御分社を持つ諏訪大社は、わが国最古の神社の一つです。祭神は大国主命の子建御名方命とその妃八坂刀命で、古くは狩猟農耕の神、武士の時代は軍神として、そして現在は産業、交通安全、縁結びの神としても崇められています。七年に一度寅と申の年に行われる御柱祭は、天下の奇祭として知られています。

諏訪大社下社には春宮と秋宮があります。

当時の面影を偲ばせています。今井邦子の足跡をたどり、文学の世界に浸ることができます。

開館時間 9:30～18:00

休館日 火曜日と祝祭日の翌日

入館料 大人220円
子供100円
団体(20人以上)
大人130円
子供50円

問い合わせ TEL.0266-28-9229



栂蔭山房(島木赤彦住居跡)

甲州道中を少し上がったところにあります。アララギの歌人であった赤彦は、この家を栂蔭山房と呼びました。300年程経つ立派な赤松の木を中心にした閑静な庭、ワラビキ屋根が、多くの優れた歌を残した赤彦を偲ばせてくれます。

問い合わせ TEL.0266-27-1111



鎌倉街道ロマンの道

「鎌倉街道ロマンの道」は、木立のなかに古き良き時代の名残を求めてたどる歴史の小径です。ゆっくりと散策を楽しみながら、思いを馳せることができます。

問い合わせ TEL.0266-27-1111

七年に一度の大祭!

諏訪大社御柱祭



諏訪大社の御柱祭は、7年に1度寅と申の年に各社の御柱を建て替える行事です。その歴史は1200年ほど前、桓武天皇の頃に始まったと言われ、天下の大祭として知られています。長さ16mにも達するモミの大木を山奥より引き出し、町内を曳いて、各社の四隅に建てるまで、諏訪の人々の心は御柱祭一色に染まります。

平成16年の諏訪大社式年造宮御柱大祭までの予定

平成13年 下社御柱用材板見立て
(5月20日終了)

平成15年 下社御柱用材伐採

平成16年 諏訪大社式年造宮御柱大祭

平成14年 下社御柱用材本見立て

日程等の詳細については下諏訪観光協会にお問い合わせください。TEL(0266)27-1111



諏訪を知るには

御柱

「男見るなら七年一度 諏訪の木落とし坂落とし」
坂を落とし、里を曳く巨大な柱のなぞ?に迫る

おんばしら?みはしら?

.....
1 巨大な4本の御柱が立つ諏訪大社秋宮。「みなさん、「おんばしら」と呼ばれますが、私どもは「みはしら」と言っております」と、社務所で静かに教えてくれたのは、諏訪大社の榎直・矢島俊彦さん。とは言っても、おんばしらという呼び名は根深い。「諏訪では御柱と言う時、祭りをさす場合と柱そのものをさす場合の両方があります」。旅行者にはなかなか区別がつかない場合もある。

7年ごとの寅年と申年に、山から伐り出した16本の柱を、上社(本宮・前宮)・下社(春宮・秋宮)の4宮の四隅に立てる祭りの名称は、式年造営御柱大祭。1356(延文元)年に書かれた「諏方大明神(縁起)書詞」に「...理武(天皇)の御宇(世)に始まれり」とあり、1200年ほどの歴史があるとされているが、諏訪大社そのものの歴史を考える

と「もっと前からあったのかも知れません」と矢島さん。なぜ柱を立てるのか、なぜ寅と申の年なのかについても諸説紛々…。なぞだらけの御柱なのである。



五丈五尺、素性のいい大木

.....
2 現在はモミの木が使われているが、木の種類に限定はなく、明治以降重量の軽いモミになったとか。選ばれる16本の木の一番の条件は「素性のいい大木であること。素性のいいとは、まっすぐであること」。柱の長さは、一の御柱が五丈五尺(約16.7m)、以下五尺(1.5m)ずつ低くなっている。では古くなった柱は?「10本は昔から行き先が決まっています。払い下げられた地区の社の御柱になったり、樫になったり。それ以外はお守り札になったり、縁起ものの表札になったり」。表札は大社の境内でお守りなどと同様に買い求めることができる。

次の御柱祭は1998年。祭りとしては、山から伐り出した柱を急坂で落とす4月の「山出し(木落とし)」や、町中を曳き回す5月の「里曳き」が有名だが、神事としては、その3年前の柱の仮見立(下社分)からすでに始まっている。以後、本見立、伐採、奥山出しなど、終了奉告祭(9月)までに14もの行事がある。

もちろん諏訪大社の祭事は、御柱祭ばかりではない。1月15日の第3宮神事、春宮・秋宮間で御柱神体が移動する2月1日、8月1日の遷座祭など、100近くもあるのだという。さすが信濃國一之宮である。

御柱の年は結婚禁止?

.....
3 秋宮境内を案内しながら御柱祭の話を聞かせてくれたのは、下諏訪観光ボランティアガイドの望月彩雲さん。「右にあるのが秋宮の一の御柱。下社は皮をむいた白木、上社は皮をむかない黒木。明治27年に一度倒れたことがあって、不吉だって言ったら、日清戦争が起きて...」。通りすがりの観光客も耳を傾ける。

「今はそうでもないですけど、昔は御柱の年は結婚してはいけないかったんですよ。厨と風呂場以外は家の修理もダメ。お金がかかったんですよ、御柱の年は」。里曳きの沿道の家々では、曳き手に飲食のふるまいをしてもらったのが習わしだったという。

諏訪大社榎直の矢島さん。



「あらびる」男の木落とし

.....
4 秋宮をあとにして、国道142号線(中山道)沿いにある木落とし坂へ。想像以上の急斜面は見上げてびっくり。坂の上に置かれた見本の柱にまたがり、見下ろせば身がすくむ。斜度は45度以上という。ここで下社の御柱本が3日かけて落とされる。そして斜面を落ちる柱にまたがり、暮がり、放り出される男たち。その男意気を「あらびる」と呼ぶそう。私は命が惜しいから、乗ったことはないですよ」と笑う望月さん。「せっかくだから...本物はもっとうまいけどね」と言いながら、木落としとして唄われる木遣りのひと筋を聞かせてくれる。「ここは木落としだでえ、お願いだあ」、壺んだ唄声が中山道にこだました。



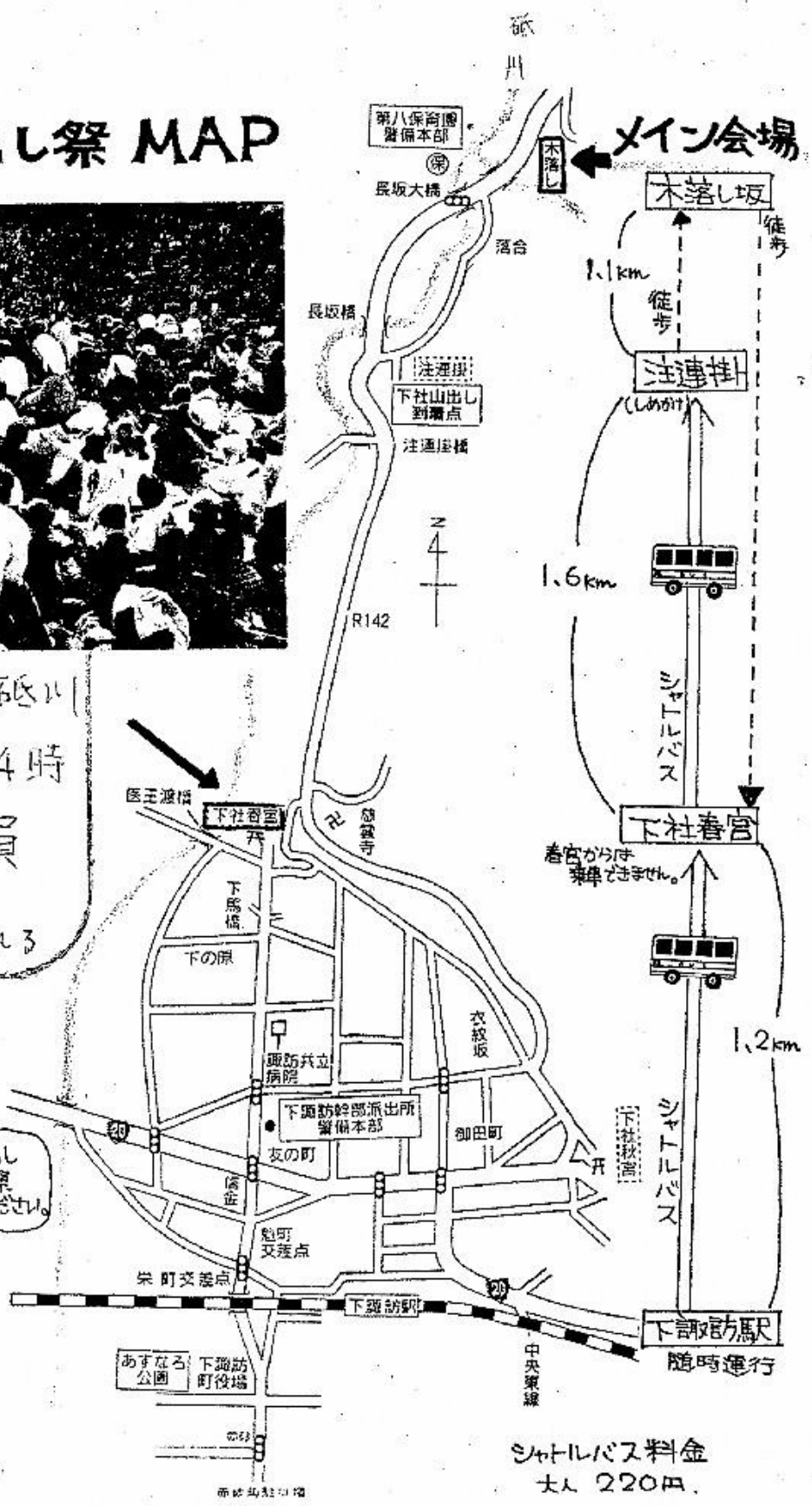
ボランティアガイドの望月彩雲さん。

下社 山出し祭 MAP



木落とし坂の前の砥川の河原は既に4時間前にほぼ満員
右の坂階段は有料席
左上で木落としが行われる

諏訪の男の度胸だ
七年一度の天下の大祭
御柱祭をお楽しみください。



シャトルバス料金
大人 220円。

江戸力持 三ノ宮卯之助の力石 所在地 高崎 力

所在地	神社等	個数	備考
[埼玉県]	久喜市 太田袋	1	文政8年・三権卯之助・18歳
	岩槻市 飯塚	1	三ノ宮卯之助
	岩槻市 鉤上	1	
	岩槻市 新方須賀	2	文政13年 三権卯之助
	春日部市 船塩東	1	
	浦和市 大門	2	
	川口市 峯	1	
	戸田市 上戸田	1	大整石
	桶川市 寿	1	大整石 市指定文化財
	越谷市 三ノ宮	4	大整石・三王石・白龍石・さし石
	越谷市 越ヶ谷	1	天保2年
	越谷市 瓦曾根	1	行方不明
[東京都]	江戸川区北小岩	1	
[千葉県]	木更津市 中里	1	元は江戸下町にあったと伝える
[神奈川県]	川崎市 大師町	1	
	川崎市 大師駅前二	1	
	横浜市 港北区綱島町	4	天保2年 古文書あり
	横浜市 都築区大鵬町	1	
	横浜市 都築区南山田	1	
	藤沢市 江ノ島	1	
	鎌倉市 吾ノ下	2	
[長野県]	下諏訪町	1	天保九年四月・七十貫
[大阪府]	大阪市 北区	1	
[兵庫県]	姫路市 網干区	2	江戸力持三ノ宮卯之助

合計 平成14年3月1日現在34個

諏訪地方の伝承と信仰 (私説メモ)

○神話1 古事記の出雲の国譲り

(天ツ神側)
タケミカツチ
フツヌシ

(出雲側)
オオクニヌシ...子に聞け
コトシロヌシ...天ツ神の御子に奉らむ
タケミナカタ...力競べせむ
郡野の國の州羽の海まで逃亡
「恐しあきを殺したまひそ
こを除きては他所に行がし」

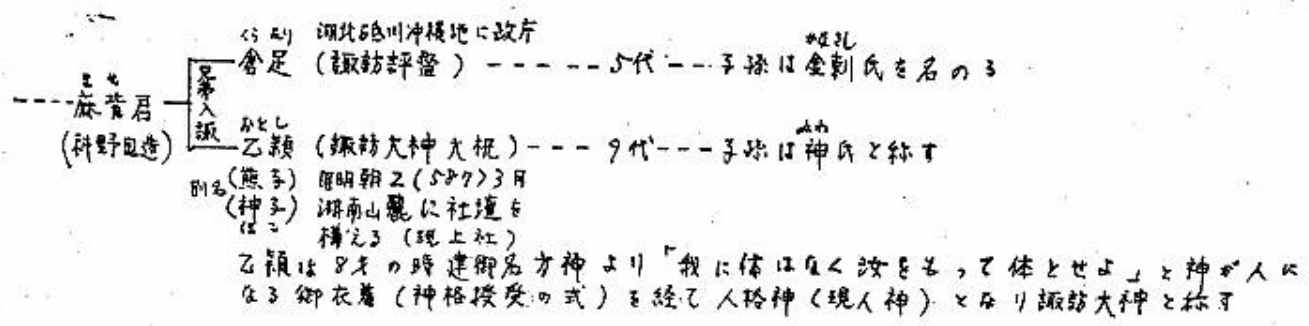
○神話2 諏訪明神の進入 (室治3年1249大祝信重辭狀・室町期小坂町忠諏訪大明神画詞より)

守屋大臣の所領 明神が伊那谷より進入
 (敗)鉄 鎧 ←(引張り合)→藤 枝(勝) (戦場は現在岡谷市の天龍川)
 大臣守屋山頂に祭る 藤島社に明神の藤が根づき天竜川を越えて浅矢社まで
 上社神依官守矢家の祖神 撃っていった
 藤島社は荒神塚古墳そのもので諏訪地方第二期の古墳
 現在77代目になる 一横穴式石室・馬具、直刀、勾玉、復原器
 守矢氏は祭祀の主導権・司祭権保持 支配権確立し下社春宮近辺に行政府

○神話3 下諏訪地区 (諏訪下社大祝武居祝系図略より)

建御名方の進入に対し 地元神武居大伴主が拒否したが神と融和し 住民側は神を祭る側となり武居祝は 大祝金剛氏を祭る

○「阿蘇氏系図」より諏訪人をみる



○原始信仰ミシヤグジ (縄文期の シャー マ = スム 色濃い)

原始古代から諏訪地方に伝承される土俗信仰 諏訪大社祭祀圏には港という場所、セツの巨石
 降神、昇神および憑依(現人神となる)を執行するのミシヤグジ神の降し場がある
 憑依された人を大祝という 大祝は神のお告げを神長官守矢氏を通じて伝える なる大祝は
 諏訪地方からは一歩もどられない...よって子とをも大祝にする...明治4年まで続いていた
 村には村代神主14人と神使6人の計20人のミシヤグジによる祭政体が形成されていた

諏訪神人(村人20人と5官祝衆で組織)の布教活動 遍歴神事では鉄鐺と御杖杖を使用し、鹿食
 5官祝衆には巫教神としてミシヤグジ神石祠がある 鹿など配布

ミシヤグジは長野県内750余社を始の全国に見られる
 ミシヤグジの発音はサグ、シヤグ、リゴ、シユゴなどからミシヤモジ様まである
 文字の組合わせも御左口神、御射宮司、御作神、天神、石神など200以上
 御神体の多くは縄文中期にかみられる石棒が入っている(神の憑代といふ)

諏訪大社の古記録 (私集)

- 用明朝 2 (587) 湖南守屋山麿に社を構えり (河森氏系図) → 現在の上社
- 壬申の乱 (672) 信濃の金刺氏の兵は 大海人皇子 (天武天皇) 側に参戦
- 持統朝 (691) 持統天皇は風神として勅祭し "復波神" と呼ぶ
- 和銅 5 (712) "古事記" なる
- 養老 5 (721) 信濃國を割いて諏訪國を置く (凡工紀論さん10年後)
- 天平 3 (731) 諏訪國を廢し信濃國に合併
- 天平神護元 (765) 金刺人麻呂は伊奈郡大領・從五位下 (鏡日本記)
- 大同年間 (806-810) 平城天皇 諏訪下社に社印 "亮神祝" を下賜 → (重要文化財として保存されている)
- 承和 9 (842) 諏訪祭神は "南方刀美"
- 仁寿 3 (853) 金刺正長は埴科郡大領にして亮神祝を兼ねる (下社大祝武居祝系図略)
- 延喜 9 (909) 南方刀美二座名神大
- 延長 5 (927) 延喜式神名帳に "諏方郡二座 南方刀美神社二座名神"
- 文明 12 (1480) 下社大祝金刺興春は塩尻の悪党を使って2月6日上社前宮近辺に放火
- 文明 15 (1483) 神宮寺湯の隣の戦いで下社金刺大祝興春は上社方に討ち取られる
- 水正 15 (1518) 下社遠江守金刺昌春一類八面々家風悉く断絶
- 明治 4 (1871) 大祝制度廢止

上社 と 下社 の比較

	(神体)	(祭神)	(大祝)	(御射山祭)	(田植神事)	(御柱)
[上社]	岩座 岩磐 四ヶ	建御名方神	金刺氏 神氏	御射山神 <small>ミキ</small>	藤島社	八ヶ岳御小屋山 (圓有杯) (以前は上社所有杯) "川越之"
[下社]	神木 春宮一位 秋宮 杉	八坂刀売神	金刺氏	霧ヶ峰 七島八島 の 温泉	御作田	東侯團有杯 "木蔭し"

遷宮

2月1日 秋宮 → 春宮
8月1日 春宮 → 秋宮

20